

全港湾結成80周年記念祝賀会

全港湾結成80周年記念祝賀会を2026年9月10日に、群馬県安中市の舌切り雀のお宿磯部カーテンにおいて、約330人が出席し開催された。はじめに全日本港湾労働組合を代表して鈴木委員長があいさつを行った。全港湾は、1946年7月に東京・京橋公会堂にて全日本港湾労働組合同盟として結成大会を開催して日本の港湾労働者の唯一の産業別組織約三万人が誕生した。全港湾運動史によると結成準備は寒い時期の石川県片山津温泉、大阪港健保組合片山津保養所で行われたとされ、交通機関、宿泊施設、食べ物もままならずリュックにお米を入れてポロポロの服とボロ靴を履いてすし詰め汽車の長旅でへとへとになって集まっ

たと記されている。この準備から半年後に開催した結成大会は米軍の大空襲によって焼け野原になった東京で残った建物も天井に穴が開き、雨が代議員席に漏れてくる中で開催し提案を決定して2日間の大会を終えた」と記されている。本年、全港湾は80周年を迎えた。戦後の混乱期から高度経済成長やバブル期などを経て今がある。今の我々には想像もつかない創成期の壮絶な港湾の民主化のたたかいや港湾労働者解放のたたかいは先輩諸氏の苦労から始まり、革新荷役反対闘争など時代の経過の中で全港湾は一貫して大衆路線を堅持してたたかう労働運動と反戦平和運動を基本方針として歩んできた。私たちは80周年を迎え原点を再確認し、

来賓では、港湾貨物運送事業労働災害防止協会の藤木幸太会長、国交省港湾局経済課の末満章悟課長、厚

各単組定期大会

全港湾

全日本港湾労働組合の第97回定期全国大会を、9月9日、10日の2日間、ホテル磯部カーテンにて開催した。

役員については投票の結果、関東地方出身の鈴木誠一氏を中央執行委員長に、九州地方出身の松永英樹氏を書記長に選出、新執行体制を確立した。

日港労連

日本港湾労働組合連合会は9月9日・10日に掛けて第74回定期大会を新潟県新潟市「アートホテル新潟駅前」に於いて開催した。

大会では全国港湾労働組合連合会・竹内中央執行委員長を来賓としてお招きをして、産別運動と団結の決意について貴重なご挨拶を頂いた。

議長団には、宮本貴之代議員・松村義則代議員を選出し議事進行をされた。また25年度の運動総括に経ったうえで、26年度運動

方針では港湾荷役・関連部門・検査部門を踏まえ専門・現業労働者の地位向上・職域の確保安全など多岐に亘る運動方針が満場一致で承認された。

大会の閉幕にあたっては「物価上昇に負けない賃金の引き上げと生活向上を実現するため、春闘での賃上げ獲得ならびに労働諸条件の向上改善に全力で取り組み、港運現業労働者とその家族を守り抜く。さらに港湾で働く次世代の育成を進め、組織の活性化と拡大強化を図るとともに、全国の仲間が各組織の仲間と連帯を一層深め、港湾産業の健全な発展と社会的役割の向上に努める」とした大会宣言を採択した。

最後に德里中央執行委員長による、力強い団結カンパロウ三唱を行い、第74回定期大会を終了した。

検数労連

9月9日（水）10日（木）にかけて、シーパレスリゾートで全国検数労連第58回定期全国大会が開催され、25年度の活動経過報告と総括と26年度運動方針を次の通り確立した。

2026年度も中央・地域・職場・組合員の接点を深く追求し、現場の要求と課題を的確に運動へ反映させながら、要求実現に向けた取り組みを着実に前進させていく。具体的には、次の6点の運動を基本に進めていく。

①雇用と職域の維持・発展
②安定した生活の維持、向上に向けた経済要求
③日常活動の活性化と次世代育成
④組合の発信力を発揮し組織化
⑤職場を基礎にしたたたかい
⑥暮らしと雇用、平和を守る運動

大阪港湾労働組合は、26年10月2日（金）大阪港湾労働者福祉センター3階特別会議室において、第74回定期大会を開催した。

大会は、執行部・代議員を含め参加者106名が参加、議長には磯部代議員間口運輸支部と神田代議員（海陸運輸公社支部）を選出し、円滑に議事進行を行った。

また、大会には全国港湾労働組合連合会・玉田書記長をはじめ、多くの関係団体から挨拶や祝電・メッセージをいただいた。審議では、第1号議案から第6号議案、大会スロ

6点を基本に地域・職場と連帯してたたかう決意が確認され大会を終えた。

全倉運

全倉運は9月7日（月）8日（火）にかけて、愛知県豊橋市のシーパレスリゾートで第81回定期大会を開催。大会には、各単組代議員など62名が参加、議長団に三井倉庫HD労組の遠矢代議員と川西倉庫労組の森下代議員を選出した。

挨拶に立った河本愛樹委員長は、1年間の活動を振り返り、春闘賃上げ・一時金引き上げの一定の成果を報告、今後も引き続き、賃上げや労働条件改善などに取り組んでいこうと呼びかけた。

続いて全国港湾より来賓挨拶をいただいた玉田雅也書記長からは、倉庫・港湾業全体としての産別最低賃金や、料金問題を指摘し、連帯して産別運動を作り上げることを呼びかけた。

その後、年間の活動経過を報告、新年度の運動方針などを審議、採択した。新年度の役員選挙では、昨年度に引き続き、河本中央執行委員長（三菱倉庫労組）を選出するなど新役員候補者全員が信任を受け、新年度執行部の体制を固めた。

大会の最後には、河本中央執行委員長の団結カンパロで締めくくった。

検定労連
検定労連第54回定期大会は、9月28日（月）から30日（水）にかけて、途中各

単組定期大会を挟み、リモットを含め総数28名の参加のもと開催された。

大会は出光副委員長による開会あいさつ及び資格審査報告の後、議長に宮崎代議員、元代議員を確認した。

議事に入り決算案、予算案を含めた中央執行委員会提出議案について審議を行ない、賃上げを含めた春闘課題や、逼迫する要員問題、災害対策などが議論され、決算、予算を含めた全ての議案が全会一致で採択された。

今次大会にて前委員長の遠藤一幸氏が退職に伴う退任となり、海事検定・横浜より渡邊直人氏が中央執行委員に選出され承認された。新たな中央執行委員長として海事検定・神戸の上出透氏、副委員長として海事検定・名古屋の川上明宏氏が務めることを確認した。

退任の挨拶で前中央執行委員長長の遠藤氏は12年を振り返り、「新日本検定協会の分社に伴う検量免許の譲渡・譲受問題や、指定事業体の問題など、大きな問題に對峙してきたが、指定事業体問題に関しては完全解決とはなっていない。やり残した事は沢山あるが、次期執行部に託したい。」と述べた。

その後「全国港湾の旗の下、全国の港湾労働者と連帯し、魅力ある港湾労働の実現に向けて共に闘う」という決意を込めた大会宣言が採択され、川上副委員長が挨拶をもって閉会した。

その後「全国港湾の旗の下、全国の港湾労働者と連帯し、魅力ある港湾労働の実現に向けて共に闘う」という決意を込めた大会宣言が採択され、川上副委員長が挨拶をもって閉会した。

その後「全国港湾の旗の下、全国の港湾労働者と連帯し、魅力ある港湾労働の実現に向けて共に闘う」という決意を込めた大会宣言が採択され、川上副委員長が挨拶をもって閉会した。

その後「全国港湾の旗の下、全国の港湾労働者と連帯し、魅力ある港湾労働の実現に向けて共に闘う」という決意を込めた大会宣言が採択され、川上副委員長が挨拶をもって閉会した。

その後「全国港湾の旗の下、全国の港湾労働者と連帯し、魅力ある港湾労働の実現に向けて共に闘う」という決意を込めた大会宣言が採択され、川上副委員長が挨拶をもって閉会した。

シャモ樽

通級指導を受けている子供の数が過去最多となっている。通級指導とは、学習障がいなどがあ

る子どもが通常クラスに在籍しながら、1週間の数コマ、別の教室に通い、少人数で授業を受けることで、1993年に制度化され、2024年度は通級対象の児童・生徒数が過去最多の23万405人となった。学習障がいとは、聞く、話す、読み書き、計算、推論の特定の行為に困難がある障がいだ。通級指導では、言語障がいがある子どもには口や舌の体操を通して発音を意識して話せるようにすることや、筆記に困難がある子供にはタブレット入力などを教えたりする。現在では通級クラスで学び、大学進学する人も珍しくな

い。障がいを持つ子どもへの『合理的配慮』をすることで、子供の学びや育ちを支えることだ▼一方、支える側の体制は十分であるかどうかであるが、肝心なことは、学校が福祉機関とも協力し、幼い頃から個別の教育支援計画や指導計画などを立てることや担当する教員の研修も必要だ。ある調査結果では、研修を受講しない理由で最も多いのが『業務多忙』であった。子供たちの未来のためにも、教職員定数増や業務負担の軽減を進めて著しい多忙を解消し、行き届いた教育を保障することが必要である。